



「実り」の多き年に。

岡谷市長 今井 竜五

新年おめでとうございます。

市民の皆様には、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年の岡谷市は、異常気象や台風などにより、農作物の不作や、倒木、建物損壊の被害もありましたが、一方で、岡谷南高校漕艇部の25年ぶりとなる全国高校総体優勝や、岡谷市を拠点に活動しているパラアイスホッケー日本代表の平昌冬季パラリンピックへの出場決定など、明るく、うれしい話題もありました。

国政では、衆議院の解散総選挙が行われ、一億総活躍社会の実現に向け「600兆円経済の実現」、「希望出生率1・8」、「介護離職0」という新・三本の矢を推進し、「働き方改革」、「人づくり革命」、「生産性革命」に取り組み、子どもから高齢者まで「全世代型」の社会保障制度を確立するとともに、成長と分配の好循環を創り上げ、少子高齢化の克服と経済成長を目指す

としております。

岡谷市におきまして本年は、第4次岡谷市総合計画 後期基本計画の最終年度となり、これまで展開してきた施策・事業の集大成として、成果を確実に結実させるとともに、第5次岡谷市総合計画の計画期間である次の10年間へ着実につないでいくための重要な年となります。

引き続き「たくましい産業の創造」、「輝く子どもの育成」、「安全・安心の伸展」の3項目を重点施策とし、各種事業を展開してまいります。

「市民誰もが安全で安心して、健康で生きがいを持って暮らすことができ、このまちに住み、働くことに誇りと自信、そして、愛着を持てるまちづくり」を進めるとともに、将来に向け、健全で安定的な行財政基盤を確立し、時代の流れに対応しながら、未来へ多くの夢と希望を描くことができるまちづくりに努めてまいります。

市民の皆様には「岡谷市のまちづくり」に、より一層のご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

迎えました平成30年が、安全・安心で平穏な年となり、市民の皆様にとりましては、ご健康で幸と実りの多き年となりますよう心からお祈り申し上げます、新年のあいさついたします。

平成30年 元旦

特集

ピョンチャン

平昌でファイト!

パラアイスホッケー日本代表チーム、岡谷から平昌へ。

やまびこスケートの森で練習を重ねたパラアイスホッケー日本代表チームが、平昌パラリンピックに出場します。みなさんの声援を、やまびこスケートの森のリンクに、そして、平昌に送りましょう!

パラアイスホッケーとは

下肢に障がいを持つ人たちのために、「アイスホッケー」のルールを一部変更して行うスポーツ。「スレッジ」と呼ばれるスケートの刃を2枚付けた専用の“そり”に乗り、左右の手にスティックを1本ずつ持ってプレーします。スティックにはアイスピックとブレードがついていて、ピックで氷をとらえ“漕ぐ”動作で前に進み、ブレードでパックを操り、パスを出したり、シュートを放ちます。アイスホッケー同様にボディチェック（体当たり）が認められていて、「氷上の格闘技」と呼ばれるほど激しいスポーツです。試合は15分3ピリオド制。

©一般社団法人日本パラアイスホッケー協会/JPIHA 「写真提供：小金澤周平／公益財団法人苫小牧市体育協会」

やまびこスケートの森は 自分にとっての聖地

平昌はわたしにとって5大会目のパラリンピックになります。長野大会で初めて出場し、ソルトレイク、トリノ、バンクーバーと戦ってきました。ソチには残念ながら行けなかったのですが、平昌は8年越しの出場になります。

この競技との出会いは、23歳のころ、たまたま見ていたテレビのニュースで、パラアイスホッケーの講習会を知り、興味を引かれました。その後、実際に講習会に参加してスレッジ（パラアイスホッケー用のソリ）に乗せてもらったら、これがおもしろい。氷に乗れば乗った分だけ、うまくなっていく。このおもしろさがなければ、こんなに長いこと、この競技をやっていたいなかったかもしれません。とはいえ、始めたころは道具も満足に揃っていなかったもので、自分



パラアイスホッケー 日本代表
FW
吉川 守さん（飯田市出身）

の体に合わせて、自分で作らなければならぬ部分もありました。これから始める人はすぐに乗れる道具があるので、恵まれていると思います。

練習場所にしても、飯田市出身の自分にとって、すぐ近くの岡谷に練習場所があったからこそ、この競技を続けることができました。その意味でも、この競技を始めてから、ずっと通い続けているやまびこスケートの森は、自分にとっての聖地です。地元、岡谷の人も応援に来てくれるので、良い意味でプレッシャーになり、力になります。平昌に向けてがんばりますので、引き続き応援をお願いします。



選手を支えるみなさん

岡谷で懸命に練習する選手のみなさんのために、少しでも役に立ちたい! と活動している人たちがいます。その熱い思いをお聞きました。



彼らを支える、あたたかい地域づくりをしたい

2016年に、やまびこスケートの森がナショナルトレーニングセンターに指定されたのを受け、選手のみなさんに対し、わたしたちがお手伝いできることをたずねたら、



岡谷市社会福祉協議会
ボランティアコーディネーター
今井 純子さん

チームマネージャーさんから「彼らはアスリートなので、なんでもできる。お願いするなら、ぜひ、選手たちのことを知ってほしい。見に来て応援してほしい。」と言われました。考えてみれば、日本代表チームが練習をしている市町村なんてそんなになので、岡谷のみなさんにとって、これは貴重な機会です。それで、わたしたちは練習見学会、講演会、寄せ書き会などで、彼らのことを知って、見て、広めてもらう活動を始めました。うれしいことに、チームは予選突破を果たしてくれましたので、次は



パラリンピックの本番に向けての応援です。練習の見学会は引き続き行いますし、1月21日にはレイクウオークで寄せ書き会をしますの
で、ぜひとも参加してください。
「わたしたちにできること
Ⅱ 応援を始めよう!」

最高の経験則を持った チームで挑む

ヘッドコーチとして、平昌が3大会目のパラリンピック出場になります。前回のソチは予選敗退でしたが、その悔しさを共に経験したメンバーを多く含むチームで挑みます。日本代表メンバーの平均年齢は41・8歳。



パラアイスホッケー 日本代表
ヘッドコーチ(監督)
中北 浩仁さん

対する強豪国のアメリカやカナダは20歳代が中心。また、現在、主戦力のひとり、三澤選手がケガで出場できないなど、厳しい状況にあります。が、わたしたちには世界最高の経験則があります。この経験則を武器に戦います。

そして、岡谷のみなさん、応援ありがとうございます。1月中旬には長野市で強化試合もしますので、応援にきてください。



平昌へ どん底からはい上がり

わたしは北海道出身ですが、やまびこスケートの森には、20年近く通い続けているから、よく知っています。パックでついた傷のあとまでね。ナショナルトレーニングセンターに指定されてから控え室も用意されたので、練



パラアイスホッケー 日本代表
キャプテン
須藤 悟さん

習もしやすくなりました。以前は、リンクサイドで着替えていましたから。岡谷のみなさんが練習を見にきて応援してくれるのも、本当にうれしいです。チームとしてはバンクーバーで銀メダルを獲ったあとの、ソチでの予選落ち。まさにどん底からはい上がった感じ。平昌への予選突破で、とりあえずの恩返しはできましたが、本戦もがんばります!



ファンのひとりとしても 応援したい

日本のパラアイスホッケーは、1998年の長野パラリンピックに向けて、1994年にオープンした当施設で練習が始まりました。



やまびこスケートの森
事業推進部 課長
笠原 芳文さん

この競技は、選手が使用するスティックについているピック(爪)で氷を捉え滑りで進むため、氷に傷がつくという事で敬遠する施設もありましたが、パラ競技の普及という使命感を持って受け入れられました。以来、職員の協力のもと、長年携わってこれ、パラリンピックや世界選手権では、審判として参加することもできました。

2016年にナショナルトレーニングセンターに指定されたことで、選手専用の控え室が用意され、練習時間も今まで以上に確保できるようになりました。施設職員としてだけでなく、ファンのひとりとしてとてもうれしく思います。



ミサंगाやポスターを 作りました



岡谷東高等学校
ボランティア部 部長
小平 鈴さん

わたしたちボランティア部は、障がいのある人たちと話をしたり、いっしょに作業をすることを部活動の一環として行っています。パラアイスホッケー日本代表のみなさんとは、市の社会福祉協議会

を通して知り合いました。選手のみなさんはすごいアスリートなので、支援というより、応援をしたり、ほかの人にも選手のみなさんのことを知ってもらおう活動をしようと思いました。部のみんなで話し合い、ミサंगाを作ったり、練習会場のやまびこスケートの森には、手作りのポスターを貼りました。練習を見に行くと応援している部員もいます。ポスターを見た選手のみなさんが、喜んでくださったというのを聞いて、わたしたちもすこ



くうれしいです。パラリンピックの会場には行かれませんが、いつも近くで応援している気持ちを伝えたいです。

「選手のみなさん、がんばって!」



チームジャパン これからの予定

●2018 ジャパンパラアイスホッケーチャンピオンシップ

期間: 1月7日(日) ~ 13日(土) 【入場無料】

会場: 長野市若里多目的スポーツアリーナ (ビッグハット)
平昌の前しょう戦として、日本をはじめ各国の代表選手の活躍を間近で見られるめったにない機会です。ぜひご来場ください。

●1月下旬 海外遠征

●2月上旬 熊本市にて強化合宿

●3月9日(金) ~ 平昌パラリンピック

※詳しくは、(一社)日本パラアイスホッケー協会HPをご覧ください。

【岡谷市社会福祉協議会ボランティアセンターの活動】

●1月7日(日) 成人式にて応援メッセージの寄せ書き会

●1月21日(日) レイクウォーク岡谷にて応援イベント

★パラアイスホッケー元日本代表2人のトークイベント

氷上競技のパイオニア 加藤 正さん

バンクーバーパラリンピック銀メダリスト 馬島 誠さん

★パラアイスホッケーの魅力を伝える写真展

★応援メッセージの寄せ書き会

場所: 1階レイクコート 時間: 午後1時~4時

●平昌パラリンピック大会 試合ライブビューイング(予定)

※詳しくは、岡谷市社会福祉協議会HPまたはFacebookをご覧ください。